

## 研究拠点形成事業 平成26年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関：	京都大学大学院地球環境学堂
(ベトナム) 拠点機関：	フエ大学
(ベトナム) 拠点機関：	ハノイ理工科大学
(ベトナム) 拠点機関：	ダナン工科大学
(ラオス) 拠点機関：	チャンパサック大学
(カンボジア) 拠点機関：	王立農業大学
(タイ) 拠点機関：	コンケン大学

### 2. 研究交流課題名

(和文)： インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成  
(交流分野：地球環境学 )

(英文)： Formulation of the cooperation hub for global environmental studies in Indochina region  
(交流分野：Global Environmental Studies)

研究交流課題に係るホームページ： <http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/JSPS/>

### 3. 採用期間

平成 25 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日

(2 年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関：京都大学大学院地球環境学堂

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：地球環境学堂・学長・藤井滋穂

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：地球環境学堂・教授・藤井滋穂

協力機関：

事務組織：京都大学研究国際部研究推進課、地球環境学堂・総務掛

本部構内（理系）共通事務部・経理課外部資金掛

**相手国側実施組織**（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Hue University

(和文) フエ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Hue University of Agriculture and Forestry・Associate Professor / Vice  
Rector・LE Van An

（２） 国名：ベトナム

拠点機関：（英文） Hanoi University of Science and Technology

（和文） ハノイ理工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

School of Environmental Science and Technology・Associate Professor /  
Dean・HUYNH Trung Hai

（３） 国名：ベトナム

拠点機関：（英文） Danang University of Technology

（和文） ダナン工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Faculty of Environment・Associate Professor / Dean・TRAN Van Quang

（４） 国名：ラオス

拠点機関：（英文） Champasak University

（和文） チャンパサック大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Champasak University・Vice Rector・Bounmy PHONESAVANH)

（５） 国名：カンボジア

拠点機関：（英文） Royal University of Agriculture

（和文） 王立農業大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Royal University of Agriculture・Rector・NGO Bunthan

（６） 国名：タイ

拠点機関：（英文） Khon Kaen University

（和文） コンケン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

School of Agriculture・Lecturer・Thepparit TULAPHITAK

協力機関：（英文） Asian Institute of Technology

（和文） アジア工科大学

協力機関：（英文） Burapha University

(和文) ブーラパー大学

協力機関：(英文) Chulalongkorn University

(和文) チュラロンコン大学

協力機関：(英文) Kasetsart University

(和文) カセサート大学

協力機関：(英文) Mahidol University

(和文) マヒドン大学

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

急激な変容を遂げるアジア地域の開発途上国では、気候変動に伴い頻発する自然災害、都市域と村落域の不均衡な発展、それに付随する貧困問題、都市居住環境の悪化、自然環境の劣化、地域レジリアンスの低下など、種々の問題が複合的かつ複雑に錯綜し広範囲に深刻化している。この地球レベルと地域レベルの環境問題に対して、アジアの研究者が協働し、学際的・国際的学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を探求するとともに、具体的問題を包括的に理解し、実践的研究から得られた知見を社会に還元・実践することが求められている。

京都大学大学院地球環境学堂・学舎は、従来の学問領域にとどまらず、異分野領域を融合あるいは既存専門分野の枠組みを超えた研究活動をおこない、地球環境問題解決のための学問体系確立を目指している。同時に、アジアにおける国際協働に重点を置き、特にベトナムではハノイ理工科大学、フエ大学(フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学にて海外教育研究拠点オフィスを設置し、調査研究、人材育成、実践活動の実績を蓄積してきた。現在、その活動はベトナムからチャンパサック大学(ラオス)、王立農業大学(カンボジア)、コンケン大学(タイ)など、インドシナ地域の活力ある大学との協働へと拡大しつつある。しかし、ベトナムをはじめインドシナ地域の大学は社会経済発展に特化した単科大学が多く、異分野融合がとりわけ重要な地球環境課題の解決に向けては、各大学の協働が必要不可欠である。また、インドシナ地域は地勢的、文化社会的に共通する部分も多く、同地域の環境問題解決に資する知識・技術・経験則を共有することは非常に重要である。実践技術やアプローチを探求することが求められる。

本事業では、多くの協働連携を実施してきたベトナムの 3 大学 (ハノイ理工科大学、フエ大学 (フエ農林大学、フエ科学大学)、ダナン工科大学) をインドシナ地域のハブと位置付け、当該地域における地球環境学連携拠点を形成し、教育・研究・実践の情報共有化、学際・国際的な人材交流の促進と共同研究の推進に資するインドシナ広域ネットワーク構築を目指す。具体的には、①日本側拠点機関と 6 海外拠点機関 (ベトナム 3 ハブ拠点、インドシナ 3 準ハブ拠点) 大学の研究者による共同研究チームを形成し、インドシナ地域に共通する環境問題をテーマに実践的研究を展開し、②ベトナムのみならずインドシナ地域への広域連携の拡大を見据え、学問領域、国家領域を超えた地球環境学連携のモデルを構

築する。また、③インドシナの地域の「地球環境学」の確立を視野に入れた学際的、実践的研究を蓄積する情報基盤を整備する。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 25 年度の研究交流活動はほぼ計画通り実施した。セミナーにおいては、初年度セミナー担当であるフエ大学と共同主催で「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成」第 1 回シンポジウムをホイアン市で開催した。日本側拠点機関(京都大学)、6 海外拠点機関(ハノイ理工科大学, フエ大学, ダナン理工科大学, チャンパサック大学, 王立農業大学, コンケン大学)の教員、学生、およびインドシナ地域や日本の大学関係者、日本企業関係者などを含め約 100 名が参加した。まず、本事業の趣旨説明をおこない、これまで地球環境学・学舎がベトナムで蓄積してきた教育研究成果の紹介、各拠点機関の学際的・国際的連携についての抱負、またテーマ別のグループディスカッション、50 以上ものポスター発表をおこなった。共同研究においては、ハノイ市農村部およびフエ市都市部をフィールドとした水利用・排水・廃棄物管理に関する環境衛生調査、フエ京城都市における墨上集落の居住環境調査、ベトナム版農業生産工程管理 VietGAP の取り組みに関する調査などいくつかのミニプロジェクトワークを実施しながら、今後の共同研究形成に向けた活動を進展させていく。これらの活動は逐次ホームページやニュースレターにより情報発信をおこなっている。

## 7. 平成 26 年度研究交流目標

### 「研究協力体制の構築」

インドシナ地域における地球環境学連携拠点の整備・運営を円滑に実施するため、平成 25 年度より月一回の「アジアプラットフォーム部会」(提案時は「地球環境学連携拠点委員会」)を運営し、各関係者間の情報共有や活動調整を行ってきたが、平成 26 年度においても継続的に効果的な部会運営に努める。本事業の活動を以下の 3 軸構成としているが、平成 26 年度の活動目標を付記する。

#### ①「フィールドの共有・相互理解に関するワーキンググループ」

ベトナム拠点連携地域あるいはインドシナ広域連携地域に研究フィールドを設定し、ミニプロジェクトワーク、学際・国際共同研究等の実践的活動を生み出す。

→平成 26 年度の目標：現在実施しているいくつかのミニプロジェクトワークを学際・国際共同研究に発展させる。

#### ②「人的資源の連携に関するワーキンググループ」

異なる分野・地域からの研究者の連携を推進するため、セミナー、ワークショップ等の人的交流を促進し、人的資源の連携基盤を築く。

→平成 26 年度の目標：9 月に予定している第 2 回シンポジウムにおいて、教育・研究の連携基盤の強化をより図る。また、個別のワークショップも積極的に推進する。

### ③「情報資源連携ワーキンググループ」

インドシナ地域で共有すべき情報資源を効果的に共有・活用するための刊行物・Web データベースなどを整備する。

→平成 26 年度の目標：地球環境学堂HP内にある本事業HP、及び定期的に刊行している SANSAI Newsletter 等による活動記録と情報発信を充実させ、国内外への周知を図る。

#### 「学術的観点」

本事業では、インドシナ地域における近年の都市化や市場経済化に起因する「暮らしと環境」に関わる複合的問題が様々な局面で顕在化している認識のもと、いくつかのミニプロジェクトワークを実施している。例えば、①ハノイ市農村部およびフエ市都市部をフィールドとした水利用・排水・廃棄物管理に関する環境衛生調査、②フエ京城都市における墨上集落(不法滞在地区)の居住環境調査、③ベトナム版農業生産工程管理 VietGAP の取り組みに関する調査などである。いずれも衛生環境、居住環境、食の安全などインドシナ地域の環境問題として共有できる点で意義がある。平成 26 年度は、これらのミニプロジェクトワークを共同研究として発展させると共に、シンポジウム等で環境問題解決への方向性を議論する。

#### 「若手研究者育成」

平成 26 年度も継続的に若手研究者の連携促進を図る。研究セミナー、遠隔講義システムを適宜利用し、研究者同士の相互理解、フィールドの相互理解、ミニプロジェクトワーク立案、共同研究立案等の関わりの中でベトナム・日本の若手教員・大学院生の育成機会を得る。また、ベトナムで開催されるシンポジウムでポスター発表による研究発表、及びインドシナ地域の若手研究者との情報共有と意見交換おこなう。

## 8. 平成26年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 25 年度	研究終了年度	平成 27 年度
研究課題名	(和文) 地球環境学的アプローチによる学際的フィールド研究 (英文) Inter-disciplinary field research approaching to global environmental studies				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 藤井滋穂・京都大学大学院地球環境学堂・教授 (英文) Shigeo Fujii・Kyoto University Graduate School of Global Environmental Studies・Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) HUYNH Trung Hai , Hanoi University of Science and Technology Associate Professor				
参加者数	日本側参加者数	89 名			
	(ベトナム) 側参加者数	111 名			
	(ラオス) 側参加者数	9 名			
	(カンボジア) 側参加者数	5 名			
	(タイ) 側参加者数	37 名			
26年度の 研究交流活動 計画	昨年度に引き続きベトナム 3 拠点を中心にフィールドを共有したミニプロジェクトワークおよび共同研究を日越の研究者・大学院生で進める。必要に応じてインドシナ地域研究者の視察や参加も促す。フィールド調査だけでなく、ベトナム 3 拠点到設置してある遠隔講義システム等を利用して意見交換等を適宜おこなう。また、関係者が集うシンポジウムのポスター発表等で研究発表をおこなうことで情報共有を図るとともに、インドシナ地域の参加研究者と当地域で共有しうる課題の議論・意見交換をおこなう。				
26年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	フィールドを共有した学際的・国際的な若手研究者によるミニプロジェクトワークの実施により具体的な研究活動が推進される。また、その一部は共同研究に発展し、独自の外部資金獲得や研究成果を挙げることが期待される。また、ここで展開される共同フィールド調査や遠隔講義システム等を用いた定期的な意見交換を通して個別の課題解明だけでなく、インドシナ地域共通の環境課題設定につながる				

## 8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成に向けた第2回国際シンポジウム」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “The Second International Symposium on Formulation of the cooperation hub for global environmental studies in Indochina region”
開催期間	平成26年9月(3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ベトナム、カントー市、カントー大学 (英文) Vietnam, Canthocity, Cantho University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 藤井滋穂・京都大学大学院地球環境学堂・教授 (英文) Shigeo Fujii・Kyoto University Graduate School of global Environmental Studies・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) HUYNH Trung Hai, Hanoi University of Science and Technology Associate Professor

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ベトナム)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	6/18	
ベトナム 〈人/人日〉	15/45	
ラオス 〈人/人日〉	1/3	
カンボジア 〈人/人日〉	1/3	
タイ 〈人/人日〉	1/3	
合計 〈人/人日〉	24/72	0

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)  
B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>地球環境学堂では、インドシナ地域における教育・研究連携に向けた大学間ワークショップをこれまで6か年に渡り計6回行ってきた。本セミナーではこれまでの交流活動をインドシナ広域ネットワークへと発展すべく、関係機関との間で研究者同士あるいは互いのフィールド（研究現場）についての相互理解を深めると共に、ミニプロジェクトワーク実施と共同研究への展開に向けた情報共有、意見交換をおこなうとともに、インドシナ広域への環境問題設定と解決への討議をおこなう。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>日本から6名程度、ラオス、カンボジア、およびタイのそれぞれから1名程度ずつの参加が見込まれる。昨年度に引き続き今後の連携深化に向けた相互理解が深まると共に、フィールド（研究現場）についての相互理解が深まることが期待される。昨年度は、本事業の初年度ということもあり概略的な議論が多かったが、今年度は、現在進めているミニプロジェクトワークの進展、新たな共同研究案件形成に向けた議論とともに、インドシナ広域の将来的な共同研究の可能性など具体的な議論が期待される。</p>
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>本事業の運営担当を含む本大学院におけるアジア地域の活動連携と推進する「アジアプラットフォーム部会」（提案時は「地球環境学連携拠点委員会」）を昨年度より月一回開催し、効率的・効果的な連携と運営をおこなっている。今年度のセミナー開催においては、京都大学と今年度幹事拠点機関であるハノイ理工科大学の教員間ですでに場所、期間など調整を始めており、参加者の確認等適宜その他拠点機関であるフエ大学、ダナン工科大学、チャンパサック大学およびコンケン大学と連絡を取っている。セミナーの内容に関しては、今後アジアプラットフォーム部会で議論し、現在進行しているミニプロジェクトワークや共同研究の進捗状況、刊行物・Webによる情報共有の作業とも合わせて整合性のあるセミナーを実施する。</p>



開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	金額
		外国旅費	2,366,000 円
		消耗品	30,000 円
		その他（バスレンタルなど）	150,000 円
		外国旅費・謝金等に係る消費税	189,000 円
		合計	2,735,000 円
	(ベトナム) 側	内容	
		会場費	
		現地スタッフ労務費	

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
フエ大学・准教授 ／副学長・Le Van An	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換
ハノイ工科大 学・准教授／学部 長・Huynh Trung Hai	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換
ダナン工科大 学・准教授／学部 長・Tran Van Quang	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換
チャンパサック 大学・准教授／副 学長・Bounmy PHONESAVANH	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換
王立農業大学・教 授・Huynh Trung Hai	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換
コンケン大学・教 授・Thepparit TULAPHITAK	日本・京都・ 京都大学	7 月	インドシナ地域・地球環境学連携拠点運 営委員会への出席，シンポジウム開催に 向けた意見交換

## 9. 平成26年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣 派遣	日本 〈人／人日〉	ベトナム 〈人／人日〉	ラオス 〈人／人日〉	カンボジア 〈人／人日〉	タイ 〈人／人日〉	合計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉		10/ 270 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	10/ 270 ( 0/ 0 )
ベトナム 〈人／人日〉	3/ 12 ( 0/ 0 )	10/ 40 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	13/ 52 ( 0/ 0 )
ラオス 〈人／人日〉	1/ 4 ( 0/ 0 )	2/ 8 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	3/ 12 ( 0/ 0 )
カンボジア 〈人／人日〉	1/ 4 ( 0/ 0 )	2/ 8 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	3/ 12 ( 0/ 0 )
タイ 〈人／人日〉	1/ 4 ( 0/ 0 )	2/ 8 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		3/ 12 ( 0/ 0 )
合計 〈人／人日〉	6/ 24 ( 0/ 0 )	26/ 334 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	32/ 358 ( 0/ 0 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人数・人日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

3/9〈人／人日〉
-----------

10. 平成26年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	307,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	5,512,000	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	390,000	
	その他の経費	150,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	441,000	
	計	6,800,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		680,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		7,480,000	